C—39　衣服型紙に関する研究（第3報）
——青年男女の肩傾斜角を中心として——

福島大教育　高橋キヨ子
聖和学園短大　雁部　愛
県立会津短大　○甲野藤ウタ

1．衣服型紙への適用を目的として，先に福島市の小中学生の肩傾斜角を中心とした身体形態の特徴について発表したが，本研究はそれにひき続き高校生・大学生・一般成人男女につき同様の観察を行なった。

2．資料は福島市における高校生男子153名，女子163名，大学生男子136名，女子194名及び22歳～30歳の一般成人男女各50名ずつの合計 746 名である。1966年5月～8月に男子36項目，女子38項目の身体計測を行なったうち，今回は身長・胸囲・背肩幅・頸付根囲・背部皮下脂肪厚・体重及び肩傾斜角の7項目を研究項目とした。

3．a　被検者の体位の概観，男女各年齢別に比較すると，男子は身長・背肩幅・体重において学年間に有意差なく，頸付根囲，胸囲は漸増の傾向が見られる。女子は身長，背肩幅に有意差なく，頸付根囲，背部皮下脂肪厚，体重は加齢とともに増大し，胸囲は一部の学年間に有意差が見られる。一般成人は男女とも大学生に比して全体的に劣っている。

b　肩傾斜角，年齢別の平均値で男子は22度(成人)から24.8度(大１)，女子は23.5度(高２)から25.6度(大１)にある。性差については女子が傾斜角度が大きい。前報の中学生に比較すると男女とも傾斜が大きくなっている。しかし年齢間に著差はなく，全年齢，男女とも範囲は13度より34度にわたってひろく分布している。

c　肩傾斜角に対する各項目の相関は低い。